

[横浜市陶芸センター]
令和5年度業務報告及び収支決算
 [シンリュウ株式会社]

- ※ 文中の事業欄において、
 ●：主催事業 ○：共催事業
 を示します。
- ※ 文中の達成指標欄において、
 □：定量的指標 ■：定性的指標
 を示します。

1 施設の概要

施設名	横浜市陶芸センター
所在地	横浜市中区本牧三之谷 59-3
構造・規模	木造平屋建て及び登り窯1棟(別棟)
敷地・延床面積	延床面積 396 m ² 登り窯延床面積 60 m ²
開館日	平成5年8月

2 指定管理者

法人名	シンリュウ株式会社
所在地	埼玉県朝霞市上内間木 514-2
代表者	小澤 忠
設立年月日	平成2年4月26日
指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日まで
現指定管理者の 管理運営開始日	平成18年4月1日から

3 指定管理に係る業務総括

(1) 基本的な方針の総括

横浜市陶芸センターの役割は陶芸を通して、あらゆる世代が活躍できる魅力あるまちづくりに貢献する事を基本理念とし、多くの市民に陶芸に親しむ機会を提供できるよう活動してまいりました。市民の作陶技術向上の支援や、陶芸の普及を図りつつ、柔軟で安定的な管理運営業務を実施しました。また、令和5年度はこれまでの運営経験を活かしながら、次の4つの方針のもと運営を行いました。

1. 作陶講座を常に充実・向上させる

限りあるスペースを最大限活用しながら、ニーズに合わせた講座を開催し、講座ごとに改善点を見直し、より多くの方に陶芸に親しむ機会を提供しました。初めて陶芸を体験する方に向けた講座、より本格的な陶芸を学びたい方に向けた専門講座、全国陶芸産地の粘土・釉薬・焼

成方法を取り入れた全国のやきものを楽しむ講座等、システム作りに努め、積極的に講座内容の充実・向上に取り組みました。

2. 陶芸知識の基地化、次世代育成の支援を推進する

陶芸文化の拠点として、陶芸ライブラリーの充実（陶芸図書、デジタルアーカイブ）、子ども、陶芸愛好家・陶芸指導者からの相談対応、親子陶芸教室、要望に応じた団体教室（オーダープラン）、近隣の幼稚園などへの出張教室等を開催しました。

3. 地域社会との連携に取り組む

隣接している三溪園や本牧市民公園、八聖殿と連携し、陶芸祭や共催企画を行いました。今年度は三溪園との共催企画として、白雲邸にて市民の方が陶芸センター内で制作した茶碗でのお点前体験を企画し、陶芸に親しんでもらうだけでなく、三溪園などの周辺施設や市民の方同士の繋がりを深められるよう取り組みました。また、本牧・根岸地区まちづくりの会への参加や本牧地区センターからの取材の受け入れなど、地域の連携と活性化に努めました。

4. 環境に優しい施設を目指す

大量の産業廃棄物となる使用済粘土のリサイクル等に取り組んだほか、不良在庫を減らすための期間限定粘土・釉薬の導入や、酸化金属を含む釉薬を下水に流さないなど、自然環境に配慮した施設運営を行いました。

(2) 令和5年度の業務の報告

ア 全体について

令和5年度の事業運営は、陶芸人口裾野拡大と作陶活動拠点施設の強化を目指し、指定期間第4期の2年目として、前年度に取り組んだ事業を踏まえ、さらに充実した事業運営に取り組みました。

多様なニーズに対応するため、東京都埋蔵文化センターと中近東文化センターを見学する美術鑑賞ツアーを企画し、市民が陶芸の歴史に親しむ機会となるような講座を実施しました。また、新型コロナウイルスの蔓延により中断していた全国公募横浜陶芸展も復活させ、11都府県132点の応募作品がありました。審査員には美術家の梅津庸一氏に特別参加していただき、作品評価に現代工芸以外の視点も取り入れたほか、審査員特別賞を新たに設けました。陶芸祭、共催企画、団体教室、出張教室では近隣の施設と連携し、地域の活性化や、陶芸を媒介としたネットワーク構築推進に取り組みました。

持続可能性を高める施設運営として、日常的な施設建物・設備の点検、効率的な運営の努力を行い、粘土・釉薬の再生に取り組みました。

次年度以降も今年度事業運営について検証し、陶芸文化発信・拠点施設としての役割を果たせるよう事業運営に取り組みます。

イ 使命1 陶芸に親しむ機会を提供する

初心者（子供）から経験者、いろいろな方が陶芸に親しみ教室に参加しやすい講座を開催しました。また、自主事業講座を、①体験型教室、②基礎型教室、③自立型教室の3つに分類し、あらゆる人々に広く対応した様々なテーマの講座を実施しました。今年度は隔年開催している「陶芸文化鑑賞講座」を実施し、今年度初の試みとして中近東文化センターと東京都埋蔵文化センターへの見学を行い、作品制作のみならず、より包括的に陶芸の文化に親しんでいただけるよう努めました。

- ・体験型教室として、気軽に一日陶芸体験（手び練、電動ロクロの各コース）、ゴールデンウィーク陶芸体験（手びねり、電動ロクロの各コース）、ゆったり丸一日陶芸体験、夏休み親子陶芸教室を開催しました。
- ・基礎型教室として、陶芸入門4日間講座、同3日間講座、同2日間講座を開催しました。
- ・自律型教室として、自由作陶教室（10回コース）、第2自由作陶教室（10回コース）を開催しました。

ウ 使命2 市民の主体的な作陶活動を支援する

市民の主体的な作陶活動の支援として、①追求型講座と②専門技術習得講座の2つに分類し、より深く陶芸に取り組める場を提供し、アンケート調査や利用者からの声を聞き取り、改善点を分析し利用者の満足度向上に努めました。

また、今年度は全国公募「横浜陶芸展」を主催し、日頃の製作活動の成果を発揮できる場作りにも取り組みました。

- ・利用者による作陶活動のため貸室を行い、前年度比3.9%増の3,842人が利用しました。
- ・追求型講座として、全国やきもの講座、還元焼成講座、大物焼成講座を開催し、作陶展も実施して66名が出展しました。
- ・専門技能習得講座として、電動ロクロ水挽き徹底講座、絵付け講座（上絵付、染付の各コース）を開催しました。

エ 使命3 陶芸を媒介としたネットワーク構築を推進する

作陶活動の拠点として、①支援型講座、②共催企画の2つに分類し、企画・講座を設定することで地域施設と連携し、陶芸を介して様々な支援に取り組みました。

- ・支援型講座として、陶芸の指導者等を対象にした指導者研修講座、団体教室（通常プラン、オーダープランの各コース）、出張教室を開催しました。
- ・本牧市民公園秋祭りと連携して陶芸祭を開催し、作陶展や全国公募横浜陶芸展、陶器市のほか、楽焼体験教室や手びねり体験教室、電動ロクロ体験教室を行いました。
- ・陶芸文化鑑賞講座として、中近東文化センターと東京都埋蔵文化センターを見学する貸切バスツアーを開催しました。

オ 使命4 持続可能性を高める施設運営を行う

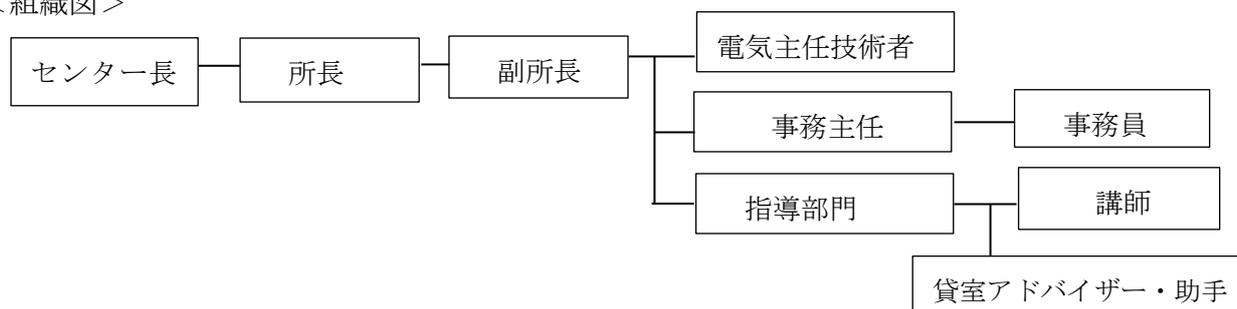
持続可能性を高める取組みとして、①日常的な施設建物・設備の点検②環境に優しい施設維持管理③効率的な運営の努力を行い、施設の安全・快適な維持管理と安定的な施設運営に努めました。

- ・毎日の見回り点検、道具類のメンテナンス、粘土・釉薬の再生、業務マニュアルの改善等により、安定した施設運営を維持しました。
- ・利用者も含めた防災避難訓練を年2回行いました。

4 運営組織の構造、人員配置

項目	人数	備考
センター長	1人	全体総括責任者
所長	1人	事業・運営・管理・個人情報管理・全業務現場責任者
副所長	1人	講座運営企画・施設維持管理・備品管理責任者 緊急時所長代行・緊急時講師代行 防火責任者・広報・講師事務総括（事務、指導部門との調整）
事務主任	1人	講師事務総括、緊急時所長代行、広報、防火責任者、講座運営企画 備品管理責任者、施設維持管理
事務員	3人	受付業務、ローテーション勤務
講師	11人	教室の指導、一部アドバイザー・助手兼務 ローテーション勤務
貸室アドバイザー・助手	6人	一部講師、助手兼務、ローテーション勤務
電気主任技術者	1人	電気設備点検・維持・管理

<組織図>



事務員、講師、貸室アドバイザー、助手をローテーション勤務体制とし、職務分担の徹底により効率的な業務遂行を実施しました。事務部門、指導部門との円滑な連携を図るため、講師も兼任できる技量をもつ社員を2名配置しました。

5 令和5年度の業務の取組

(1) 文化事業

令和5年度は①、②を重点的に取組みました。

- ① 親子陶芸教室、団体教室等、次世代育成に関する講座を実施しました。
- ② 市内の公益的作陶活動に対する情報提供や相談対応等に積極的に取組み、陶芸知識発信による基地化に努めました。

(2) 施設運営

令和5年度は①～⑥を重点的に取組みました。

- ① 貸室及び自主事業の利用者数について、令和5年度目標である年間 11,000 人を上回り、11,621人の利用がありました。

- ② 適切な施設運営のため年間 357 日の開館とし、利用者の便宜を図り利用促進に努めました。
- ③ 利用率増加のため、新規釉薬・粘土の導入に取組みました。
- ④ 利用者アンケートを活用した利用者サービス向上と利用を促進しました。
- ⑤ 限りあるスペースを最大限活用し、施設スペースの有効利用に取組みました。
- ⑥ 組織的な施設運営、効率的業務遂行、適切かつ効果的な勤務体制の確立に努めました。

(3) 施設管理

令和 5 年度は①～③を重点的に取組みました。

- ① 施設、設備等の適切な管理のため、修繕が必要と思われる箇所を常に洗い出し、可能な限り指定管理者による小破修繕で対応するとともに、それ以外の修繕については横浜市と協議を行い運営に支障が出ないように努めました。
- ② 陶芸センター周辺の環境を常に意識し、建物及び登り窯の管理に当たりました。
- ③ 汚泥量調査を実施し、適切な汚泥管理、環境維持に努めました。

(4) 収支

令和 5 年度は安定的な運営を行うため、魅力ある講座の開催、効率的な業務システムの構築、日常点検による小破修繕、在庫管理の徹底を重点的に取組みました。

(5) 各種計画書・報告書の作成及び業務評価

令和 5 年度は日報、月間事業報告書、業務計画書、業務報告書を作成・管理するとともに、自己評価を行い、業務改善に取組みました。

(6) その他

令和 5 年度は法令の遵守、個人情報保護、情報公開について、適切に対応するとともに、横浜市との連絡調整を密にし、円滑な業務遂行に取組みました。

※具体的な取組内容は、指定管理業務計画表兼評価表に記載します。

※上記 (1) ～ (6) の具体的な取組内容は、指定管理業務計画表兼評価表に記載しています。

6 使命の指標の達成状況と重点的取組事項

(1) 使命 1 陶芸に親しむ機会を提供する

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	総来場者数	10,929 人	11,000 人	11,621 人			13,000 人	
2	次世代育成を 目的とした事業 の実施回数	5 回	5 回	5 回			7 回	
3	各事業のター ゲット設定(初 心者、中級者 等)及び事業参 加者数に対する ターゲット	82%	60%	90%			80%	

	となる参加者の割合(アンケート調査)									
4	参加者の満足度(アンケート調査)	94%	70%	96%			80%			
5 ★	体験型教室	気楽に一日陶芸体験(手びねり)	7回/年 108人	7回/年 84人	7回/年 120人			7回/年 84人		
		気楽に一日陶芸体験(電動ロクロ)	7回/年 117人	7回/年 84人	7回/年 115人			7回/年 84人		
		ゴールデンウィーク陶芸体験(手びねり)	5回/年 77人	5回/年 60人	5回/年 59人			5回/年 60人		
		ゴールデンウィーク陶芸体験(電動ロクロ)	5回/年 75人	5回/年 60人	5回/年 69人			5回/年 60人		
		ゆったり丸一日陶芸体験	7回/年 104人	7回/年 84人	7回/年 104人			7回/年 84人		
		夏休み親子陶芸教室	5回/年 97人	5回/年 100人	5回/年 121人			7回/年 140人		
		6 ★	基礎型教室	陶芸入門4日間講座	5回/年 141人	5回/年 120人	5回/年 160人			5回/年 120人
				陶芸入門3日間講座	1回/年 24人	1回/年 18人	1回/年 21人			1回/年 18人
				陶芸入門2日間講座	1回/年 10人	1回/年 12人	1回/年 10人			1回/年 12人

7 ★	自律型教室	自由作陶教室（10回コース）の開催	4回/年	4回/年	4回/年			4回/年	
		利用者数	5380人	6358人	5500人			6720人	
		第2自由作陶教室（10回コース）の開催	4回/年	4回/年	4回/年			4回/年	
		利用者数	243人	328人	435人			328人	

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	参加者の意見聴取及び分析	R 4 実績	実施
		R 5 達成指標	実施
		R 5 実績	実施（※1）
		R 6 実績	
		R 7 実績	
		R 8 達成指標	実施
		R 8 実績	

※1 参加者の意見聴取及び分析の実施

- ・各講座において利用者にアンケートを実施しました。体験型教室では、年間を通した講座全体の満足度が96%と非常に高い満足度を維持できました。また、基礎型講座でも90%以上の満足度を得られました。
- ・自由作陶教室（自立型教室）の年齢層は50代以上が62%であり、高齢化が課題です。
- ・一方で、体験型教室は50代以下が77%と、自立型教室と比較して若い方が受講されており、体験型教室から自立型教室や貸室への申込につなげていくことが今後の課題です。

ウ 使命1を達成するために重点的に取り組む事項

幅広い年齢層に広く情報発信（周知）を行い、多くの体験型教室において、アンケート調査、利用者や指導現場スタッフの声を聞き取り、毎回改善点を分析することで、利用者の満足度向上に繋がりました。

(2) 使命2 市民の主体的な作陶活動を支援する

ア 定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績		
1	貸館（貸室） 利用者数	3,698人	3,920人	3,842人			4,480人			
2	作陶に関する専門技能や知識習得につながる事業の実施回数	22回	17回	21回			20回			
3	利用者満足度 （アンケート調査）	91%	70%	隔年調査のため、次年度に調査			80%			
4 ★	追求型講座	全国やきもの講座	3回/年	2回/年	2回/年			4回/年		
		利用者数	126人	70人	81人			140人		
		還元焼成講座	4回/年	4回/年	4回/年			4回/年		
		利用者数	270人	300人	423人			300人		
		大物焼成講座	12回/年	12回/年	11回			12回/年		
		利用者数	14人	24人	22人			24人		
		作陶展	1回/年	1回/年	1回/年			1回/年		
5 ★	専門技能習得講座	電動ロクロ水挽き徹底講座	1回/年	1回/年	1回/年			2回/年		
		利用者数	39人	24人	46人			48人		
		絵付け講座	上絵付 （3日間コース）	1回/年	1回/年	1回/年			1回/年	
			利用者数	27人	18人	21人			18人	
		染付 （1日間コース）	利用者数	9人	6人	9人			6人	
			招待作家講座	未実施	1回/年	未実施			1回/年	
		利用者数	0人	14人	0人			14人		

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
		R 4 実績	実施
1	利用者の状況についての現状把握 (利用者との意見交換等)	R 5 達成指標	実施
		R 5 実績	実施 (※2)
		R 6 実績	
		R 7 実績	
		R 8 達成指標	実施
		R 8 実績	

※2 利用者の状況についての現状把握 (利用者との意見交換等) の実施

- ・貸室の利用者は50代以上が79%となっており、自立型教室とともに高齢化が課題です。
- ・追求型講座では、新たに導入した粘土や釉薬の利用が多く、利用者の新たな興味を引きだすことができました。

ウ 使命2を達成するために重点的に取り組む事項

陶芸産地の粘土・釉薬を気楽に体験できるように、予約販売の期間限定粘土として萩土と信楽透光土、新規釉薬として萩透明釉と紫辰砂釉を導入しました。粘土と釉薬の特徴を活かすため、萩土と萩透明釉では低火度還元焼成を行い、信楽透光土では透光作品作りを指導するなど、利用者の意欲と好奇心に応える企画を実施しました。

(3) 使命3 陶芸を媒介としたネットワーク構築を推進する

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成指標	R 8 実績
1	技術向上、指導力養成、出張教室を実施した回数	3回	2回	2回			5回	
2	地域の施設・団体等と共催・連携して実施する事業数	16事業	10事業	10事業			15事業	
3 ★	支援型講座	指導者研修講座	2回/年	2回/年	2回/年		2回/年	
		利用者数	38人	48人	26人		48人	
		団体教室 (通常プラン)	9回/年	5回/年	10回/年		8回/年	
		利用者数	141人	150人	159人		240人	
		団体教室 (オーダープラン)	3回/年	5回/年	2回/年		7回/年	

		利用者数	49人	150人	38人			210人	
		出張教室	1回/年	1回/年	1回/年			3回/年	
		利用者数	8人	15人	16人			45人	
4 ★	共 催 企 画	三溪園共催企画	2回/年	1回/年	2回/年			1回/年	
		目標利用者数	71人	32人	63人			30人	
		本牧市民公園、 地域商店街との 共催企画	1回/年	1回/年	1回/年			1回/年	
		楽焼体験教室 (陶芸祭体験)	1回/年	1回/年	1回/年			1回/年	
		目標利用者数	25人	20人	33人			20人	
		手びねり体験教室 (陶芸祭体験)	1回/年	1回/年	1回/年			1回/年	
		利用者数	18人	16人	40人			16人	
		電動ロクロ体験教 室(陶芸祭体験)	1回/年	1回/年	1回/年			1回/年	
		利用者数	20人	16人	54人			16人	
		陶芸文化鑑賞講座 (隔年開催)	隔年開催 のため R4無し	1回/年	1回/年			1回/年 隔年開催 R7実施予定	
利用者数	-	15人	8人			15人			

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	連携したこと による関 係者の意見 聴取及び分 析	R 4 実績	実施
		R 5 達成指標	実施
		R 5 実績	実施 (※3)
		R 6 実績	
		R 7 実績	
		R 8 達成指標	実施
		R 8 実績	

※3 連携したことによる関係者の意見聴取及び分析の実施

・支援型講座のうち、団体教室と出張教室はアンケート評価では100%の満足度を達成し、来年度

の教室もご依頼いただいています。

・団体教室のうちオーダープランは申込が少なく、目標を達成できませんでした。主な利用者層として想定する幼稚園等は予算の都合上、通常プランを選ぶことが多いためと分析しており、より魅力的なオーダープランを打ち出していけるよう、検討を進めます。

ウ 使命3を達成するために重点的に取り組む事項

指導者研修講座では受講者のニーズに応えるために事前アンケートを実施しました。また、受講後も気軽に陶芸についての質問・疑問に対応できるように、常時電話・メールも受け付けています。しかしながら、受講者の応募は減っており、今年度は達成指標を下回りました。陶芸のカリキュラムを実施する現場は前任の担当者からの引継ぎが難しい問題もあり、指導に取入れる施設が減少しているのではないかと考えられます。次年度の講座内容はより実践に即した内容が必要だと考えます。団体教室のオーダープランはより安価な通常プランに選択肢が移行した事が減少した要因と考えられます。次年度はより魅力的なオーダープランの提案が必要です。陶芸祭、出張教室、団体教室では地域と連携した企画を実施し、地域の文化活動の活性化に尽力することができました。

(4) 使命4 持続可能性を高める施設運営を行う

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	施設の管理瑕疵に起因する事故件数	0件	0件	0件			0件	
2	法定点検等の実施率 100%	100%	100%	100%			100%	
3	修繕予算の執行率 90%以上	99%	90%	100%			90%	
4	日常的な施設 建物・設備の点検	毎日	毎日	毎日			毎日	
	陶芸道具類のメンテナンス、在庫管理	週1回	週1回	週1回			週1回	
5 ★	環境に優しい 施設維持管理	粘土・釉薬の再生(リサイクル)	月2回	月2回	月2回		月2回	
	粘土・釉薬を直接下水に流さない	毎日	毎日	毎日			毎日	

		排水溝・桝掃除	年2回	年2回	年2回			年2回	
		登り窯（レブリカ）の適切な管理	年9回実施	2ヶ月1回	2ヶ月1回			2ヶ月1回	
6 ★	効率的な運営の努力	早めの計画	週1回	週1回	週1回			週1回	
		業務マニュアルの見直しと改善	年1回	年1回	年1回			年1回	

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通	項目	達成指標と各年度の実績	
1	管理運営費推移の要因分析	R 4 実績	実施
		R 5 達成指標	実施
		R 5 実績	実施（※4）
		R 6 実績	
		R 7 実績	
		R 8 達成指標	実施
		R 8 実績	
2 ★	効率的な運営の努力	R 4 実績	実施
		R 5 達成指標	高額修繕の回避
		R 5 実績	実施（高額修繕の回避）（※5）
		R 6 実績	
		R 7 実績	
		R 8 達成指標	高額修繕の回避
		R 8 実績	

※4 管理運営費推移の要因分析の実施

・業務、焼成スケジュールの作成、チェックを随時更新することにより、効率的な業務の遂行につながりました。

※5 高額修繕の回避の実施

・高額修繕の回避の目標を達成するため、日常点検による早めの劣化箇所の把握と自前修繕を行いました。

ウ 使命4を達成するために重点的に取り組む事項

施設・設備の毎日の見回り点検による小まめな修繕、定期的な施設の維持管理を確実に実施しました。しかし今年度は教室内での作陶スペースの導線の問題による転倒事故が一件あり、対策として陶芸機材のレイアウトを変更しました。作陶スペースと導線の区分などを明確にし、より分かりやすく使いやすい教室になるよう努めます。また、効率的な運営を行うために、早めの計画とスケジュール調整、改善点の分析事項を運営に反映いたしました。

(指定管理者が記入する様式)

令和5年度 「横浜市陶芸センター」 収支予算書及び報告書

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	19,822,000		19,822,000	19,822,000	0	横浜市より
利用料金収入	4,200,000		4,200,000	3,396,050	803,950	貸室利用料・貸室焼成費
自主事業（指定管理料充当の自主事業）収入			0		0	
自主事業収入	15,709,200		15,709,200	18,238,333	△ 2,529,133	自主事業講座料・自主事業焼成費、教室・貸室粘土代
雑入	725,000	0	725,000	689,141	35,859	
印刷代	5,000		5,000	990	4,010	コピー代金
自動販売機手数料	120,000		120,000	132,261	△ 12,261	
駐車場利用料収入			0	0	0	
その他	600,000		600,000	555,890	44,110	受取利息・陶芸材料売上・古紙ルート収入・雑収入
収入合計	40,456,200	0	40,456,200	42,145,524	△ 1,689,324	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	15,279,000	0	15,279,000	14,796,985	482,015	
給与・賞金	13,589,000		13,589,000	12,651,548	937,452	
社会保険料	1,250,000		1,250,000	1,354,955	△ 104,955	社会保険・雇用保険
通勤手当	390,000		390,000	727,782	△ 337,782	通勤費
健康診断費・福利厚生	50,000		50,000	62,700	△ 12,700	福利厚生・香典・見舞金他
勤労者福祉共済掛金	0		0	0	0	
退職給付引当金繰入額	0		0	0	0	
事務費	3,703,000	0	3,703,000	2,381,945	1,321,055	
旅費	20,000		20,000	13,372	6,628	交通費
消耗品費	600,000		600,000	368,513	231,487	
会議船費	100,000		100,000	56,000	44,000	
印刷製本費	900,000		900,000	762,966	137,034	講座パンフレット・チラシ・広告宣伝費
通信費	350,000		350,000	303,288	46,712	電話料金・郵便料金他
使用料及び賃借料	396,000	0	396,000	447,253	△ 51,253	
横浜市への支払分	180,000		180,000	235,253	△ 55,253	ゴミゼロルート回収費・目的外使用料
その他	216,000		216,000	212,000	4,000	駐車場契約料
備品購入費	500,000		500,000	16,320	483,680	ロッカー・パソコン部品・事務用品他
図書購入費	20,000		20,000	0	20,000	陶芸ライブラリー用陶芸図書購入費
施設賠償責任保険	117,000		117,000	75,792	41,208	施設管理者賠償責任保険・動産総合保険・レジャーサービス費用保健
職員等研修費	20,000		20,000	47,420	△ 27,420	陶芸教材用テキスト代
振込手数料	60,000		60,000	47,410	12,590	
リース料	350,000		350,000	90,255	259,745	電動クロコ・小型電機窯・コピー機リース料
手数料	270,000		270,000	153,356	116,644	ホームページメンテナンス・会計ソフトサポート料
地域協力費	0		0	0	0	
事業費	12,364,000	0	12,364,000	12,567,389	△ 203,389	
自主事業（指定管理料充当の自主事業）費	0		0	0	0	
自主事業費	12,364,000		12,364,000	12,567,389	△ 203,389	陶芸材料仕入れ・業務委託料
管理費	5,880,990	0	5,880,990	4,961,519	919,471	
光熱水費	2,112,000	0	2,112,000	1,156,334	955,666	
電気料金	1,522,000		1,522,000	635,078	886,922	三相・200V・単相・100V電気料金
ガス料金・灯油料金	190,000		190,000	184,295	5,705	プロパンガス・灯油窯用灯油
水道料金	400,000		400,000	336,961	63,039	上下水道料金
清掃費	2,200,000		2,200,000	2,182,400	17,600	毎日清掃（毎日）・定期清掃（年2回）
修繕費	500,000		500,000	553,429	△ 53,429	備品設備他
機械警備費	400,000		400,000	393,360	6,640	開館時以外常時機械警備（365日）
設備保全費	668,990	0	668,990	675,996	△ 7,006	
空調衛生設備保守	410,000		410,000	315,568	94,432	定期保守点検・室内送風機洗浄
消防設備保守	88,000		88,000	88,000	0	消防設備点検
電気設備保守	150,000		150,000	255,126	△ 105,126	電気炉他保守点検（年1回）電気設備取付・保守
害虫駆除清掃保守	11,000		11,000	5,238	5,762	スズメ蜂・蚊用殺虫剤・蚊取り線香
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	9,990		9,990	12,064	△ 2,074	松葉清掃及び排水汚泥回収納棄費用袋
共益費	0		0	0	0	必要に応じて支出
公租公課	1,400,010	0	1,400,010	1,795,811	△ 395,801	
事業所税	0		0	0	0	事業所床面積と従業者数が標準に満たないため
消費税	1,400,000		1,400,000	1,795,200	△ 395,200	実績に基づく試算
印紙税	0		0	600	△ 600	
その他（ ）	10		10	11	△ 1	受取利息からの納税分
事務経費（計算根拠を説明欄に記載）	1,829,200	0	1,829,200	1,808,519	20,681	
本部分	1,069,200		1,069,200	1,069,200	0	本社事務管理費等
当該施設分	760,000		760,000	739,319	20,681	事務用品費
二一三対応費	0		0	0	0	
支出合計	40,456,200	0	40,456,200	38,312,168	2,144,032	
差引	0	0	0	3,833,356	△ 3,833,356	
自主事業費収入	15,709,200			18,238,333		講座料・焼成費・粘土代
自主事業費支出	12,364,000			12,567,389		業務委託費・陶芸材料仕入
自主事業収支	3,345,200			5,670,944		
管理許可・目的外使用許可収入	720,000			688,151		陶芸用小道具売上・自動販売機売上手数料
管理許可・目的外使用許可支出	180,000			235,253		陶芸材料支払い・分・賃借料・ゴミゼロルート回収費
管理許可・目的外使用許可収支	540,000			452,898		